

## 精密検査結果報告書の記載について

参照：神戸市認知機能精密検査結果報告書

## (1) アルツハイマー型認知症（血管障害あり）

アルツハイマー型認知症は「血管障害なし」と「血管障害あり」に統計を分けている。

- ・脳血管障害（cerebrovascular disorder：CVD）を有する Alzheimer 病（AD）：AD with CVD
  - ・「アルツハイマー型認知症」と「血管性認知症」のダブルチェックあり
  - ・その他の認知症の欄に、「混合型認知症」と記載あり
- これらすべて、「アルツハイマー型認知症（血管障害あり）」で集計

※脳血管障害と Alzheimer 病理が併存し、おのおのが単独でも認知症を発症しうる程度のものを混合型認知症と独立統計をとる場合もあるが、神戸市では、AD with CVD に含む

&lt;どの程度の脳血管障害（CVD）をカウントしているのか&gt;

- ① 頭部 CT 画像で描出されるもの
- ② 脳 MRI 画像で有意に描出されるもの（T1：low、T2：high、FLAIR：high）
  - ・認知機能低下と脳血管病変に時間的関連があるもの  
(梗塞性)  
多発梗塞性、戦略的な部位の単一病変性、低灌流性  
(出血性)  
脳出血、クモ膜下出血後
  - ・画像病変は認知機能低下を説明しうるもの  
(小血管病性)  
皮質下（視床、前脳幹底部）、多発ラクナ梗塞性、Binswanger 病（白質病変）  
(皮質性)  
微小出血（microbleeds）（T2\*：low）  
微小梗塞（高磁場 MRI で検出）  
→脳アミロイド血管症（cerebral amyloid angiopathy）→Alzheimer 病
- ③ 脳血流 SPECT で血管障害を示唆するもの

※現在、上記のような画像検査で有意な所見があれば、血管障害ありと集計していると推測。  
今後、微小出血や微小梗塞は血管障害ありにカウントしないといった除外基準を設けるか？

&lt;画像検査の実施状況（制度開始～令和3年11月末時点）&gt;

CT：2,821件、MRI：6,045件、SPECT：2,280件

(再掲)

CTのみ：2,413件、MRIのみ3,861件、SPECTのみ：25件

CT+MRI：113件、CT+SPECT：184件、CT+MRI+SPECT：111件、MRI+SPECT：1,960件

(2) その他の認知症の病名と認知症でないその他の疾患名で留意するもの

- ・パーキンソン病で認知症でないものは、認知症でないその他の疾患名に記載
- ・認知症を伴うパーキンソン病：Parkinson disease with dementia (PDD) は、その他の認知症 ( ) 内に病名を記載

※正常圧水頭症も同様の扱い

(3) 認知症であるのに生活に支障なしにチェックある場合どう扱うか？

→生活に支障がなければ認知症ではない。

→軽度認知障害で生活に支障がないは矛盾しない

※チェックミスを起こさないように、記載方法を周知する